

伊賀市社会事業協会

2014

2014年3月10日 第28号
発行者
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
理事長 西岡 時彦
〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL:0595-21-5545
FAX:0595-23-6670
URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

はるかなメツセージ

—サボ島海戦から—

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

会長 森下達也

首題の海戦を、日本では第一次ソロモン海戦とよぶが、国際的にはサボ島海戦とよぶ様だから、ここではそれに従う。アメリカでは「ガダルカナル泊地での信じられない屈辱的敗北」と戦史に記しており、言い換えれば日本の完勝であった。「屈辱的」とアメリカが表現するにはそれなりの理由がある。私は、その理由こそ日本の現世に生き写しであると思ってきた。この一文でそれを述べたいが、まず、海戦の経過を辿ることにしよう。

昭和十七年の夏、南太平洋の火山島ガダルカナルに飛行場を建設して反攻拠点にしようと考えたアメリカは、八月七日早朝に海兵隊三千を奇襲上陸させた。島の泊地には、上陸を支援すべく米英豪の重巡洋艦など強力な艦隊と、資材揚陸の輸送船団が集結していた。この泊地へ、三川軍一中将の率いる第八艦隊がラバウルから長駆夜襲をかけたのである。第八艦隊の構成は、重巡洋艦鳥海を旗艦として、重巡洋艦五、軽巡洋艦二、駆逐艦一、計八隻からなる高速艦隊であった。作戦は三川軍一自身の提言であり、三川の日頃の緻密さが、この大胆な作戦実施を周囲に認めさせたという。かくして七夕夕刻には出撃、一千キロに及ぶ隠密航海が始まる。

一夜明けて二日目、予想通り三回にわたって敵の空中索敵機に見されている。二回目まで、三川は艦隊を反転させては進路と意図を晦ましつづけたが、午後三回目、オーストラリア空軍機に発見された時には、日没までに米艦載機の空襲を受けるかもしれないと覚悟した。しかし何故か、何の攻撃を受けることもなく三川艦隊は夜に入るのである。再確認したことは、闇の中の衝突を避けるため旗



— 記憶の中の風景「老翁」—
松田昇 写真集「風土記」より

艦鳥海を先頭に、各艦約千メートルの間隔をとり、同じ速度の単縦陣で突入すること、そして泊地を大きく回りながら攻撃しそのまま戦場を離脱するということであった。夜明けまでにラバウルの友軍機の援護を受けられる地点に達し米艦載機の追跡を振り切るためである。甲板上の可燃物は全て海中に投棄、対潜水艦用の爆雷まで棄てた。後日アメリカも、この時の三川の統率力と全員の気魄が勝敗の鍵の一つであることを認めている。

午後十時四十分、サボ島を左に見ながら鳥海は泊地に入った。やがて見張員が、右約八千メートルに駆逐艦一隻を発見、つづいて左約七千メートルにも発見、その航行速度と方向まで読み取って報告した。闇の中で数千メートル先の小さな駆逐艦をこの見張員は識別したが、その十倍に近い大艦鳥海を、米の両艦は見えていなかったことが後日わかっていく。両艦は初期のレーダーを備えていたが、島影による乱反射でわからなかったと弁解したそうだ。紙面の都合であとは省くが、この前代未聞の艦隊夜襲は、砲撃開始から三十三分間で決着した。米豪の重巡洋艦四隻と駆逐艦一隻が火達磨となって沈み、多くの艦が破壊された。日本側は鳥海の作戦室に一発被弾し

ている。因みに鳥海には、作家丹羽文雄氏が報道特派員として乗っていた。米艦の甲板では荷揚げ半ばの荷物まで燃え盛り、まるで自艦の存在を示している様だったという。

後日米海軍省は、不様な敗因を秘匿しつつ調査した。三川艦隊を発見した索敵機は規定通り司令部に報告したというのがその時刻と内容に疑問があること、報告を受けた筈の司令部が殆ど対応せずガダルカナル泊地の艦隊は、後に「眠れる艦隊」とよばれる状態であったこと、サボ島周辺を哨戒していた米駆逐艦二隻が緊張感ある見張りをしていたら米豪の艦艇が応戦態勢をとる若干の時間が生まれていたのであること、泊地から二百キロ以内に米空母ワスプがいたが三川艦隊を追撃しなかったこと、等々である。調査の結果浮かび出したものを今風に言えば、上層部と現場との責任の擦り合い、上司の意向に阿つての沈黙、精神の伴わないマニュアル存在の危うさ、であった。責任を問われた一人である艦長ボードは自殺した。

屈辱的敗北と捉えたアメリカの反省は、実は今日の日本社会にこそ必要なのではないか。反社会的勢力への融資報告の有無で謝罪を繰り返した大手銀行、マニュアルが殆ど機能していなかったJR北海道、老人漂流社会への責任ばかり、枚挙にいとまがないだろう。然う言えば、近海で衝突接触事故の多い自衛艦についてある感想を聞いた。近頃の自衛官は自動識別装置に精通して巧みにあやつるが、太陽や月の光の中で、風に吹かれつつ海面の小船を凝視するのは、どちらかと言えば不得手なのではないかという感想である。今、全ての分野に求められるものは「人間力」の回復であろう。

さて、サボ島海戦の勝利の後、日本は敗戦への坂道を転げ落ちて行く。三川艦隊の命がけの奮戦が、戦況を逆転することはなかった。国家の犯す最大の愚行が「戦争」であることを確認して、この稿を終わりたい。

(三重県社会福祉協議会会長)

消防署員立ち会い避難訓練 ～大切な命を守る～ 友生保育園

「給食室の油に引火して火事です」という大きな叫び声と同時に非常ベルが鳴り、全園児が職員に誘導され、一斉に第一避難場所を示す園庭の赤い旗の下に避難しました。

立ち会って下さった消防署員の方に「煙を吸わないように口を押さえて早く逃げることができました」とほめて頂きました。また、「ライターを使って遊ばないこと」「ストーブなどの近くにおもちゃや燃えやすいものを置かないこと」など、防火の心得を教えてもらい、約束しました。

毎月、職員による消火訓練も行なっていますが、今後も災害発生時を想定して訓練し、更に防災意識を高めていきたいと思っています。



安全に避難することができました

三田コーラスの皆さんとともに ～童謡に思いをのせて～ 三田保育園

地域で活動されている女声合唱団「三田コーラス」と、当園4・5歳児とのジョイントコンサートが、地域の文化祭で実現しました。

文化祭参加のための音合わせに、保育園に来ていただいた時のことです。コーラスの方々は「二部に分かれて歌うと、子どもたちが戸惑うのではないか」と心配して下さったのですが、初めて声を合わせたあと「あー、気持ち良かった」「きれい、あんな声で歌いたい」とつぶやいたのです。これらの声には、メンバーの皆さんも職員も感激しました。ハーモニーの美しさを体感し、歌う喜びを心から感じ取った子どもたち。

文化祭当日は、三田コーラスの皆様のきれいな衣装に目を丸くしながら、ステージで歌う楽しさを味わったようです。



楽しかったジョイントコンサート (三田小学校 体育館)

たくさんの絵本をありがとう

〜絵本贈呈式〜 児童クラブ ふたば

伊賀市の「上野東ロータリークラブ」様から、絵本や児童書、図鑑など35冊を寄贈していただきました。

児童2人が、いただいた図書の中から『ねこがおしえてくれたよ』を選び、お礼の気持ちをこめて、ロータリークラブの皆さんの前で朗読しました。部屋的一角にある“上野東ロータリークラブ文庫”の図書は、262冊になりました。「本が大好き」「全部、読もう」と読破計画を立てている児童がいます。たくさんの絵本をいただき、ありがとうございました。



上野東ロータリークラブの皆様と一緒に

みんなで楽しくお正月あそび

花之木保育園

こま回しやすごろく、福笑い、かるた取りなど、お正月ならではの伝承あそびをするご家庭が少なくなってきました。そこで当園では、あえて多くのお正月あそびを経験するようにしています。

こま回しでは「こまのひもを巻くの難しいな」「ぼくできるよ」と言いながらできるまで挑戦し、「できた」「まわった」と大きな歓声を上げていました。美しいいろどりの花ごまをみんなで回すと、たくさんの花が咲いたようでした。



花ごまってきれいだね

春が待ち遠しいな

長田保育園

日当たりの良い草むらには、よもぎやたんぽぽ、ほとけのざが若芽やつぼみを付け始めました。子どもたちは「春になると、つくしが顔を出すよ」「てんとう虫が飛ぶよ」と春を待ち望んでいます。

新しい年度を迎えるこの時期、子どもたちの成長を願って「春を迎える会」を開催しました。3・4・5歳児混合のグループに分かれ、園内のさまざまな

場所に飾った春の草花や小動物カードを探しました。見つけたカードを見せ合い「一年生になったら咲く花や」「年長さんになったら小さい子といっしょに探しに行こう」と顔を輝かせていました。

見つけたカードを大きな紙にまとめて飾り「わあ、春になった」と大喜びでした。



春になったよ

れた保護者がいました。家庭での食について見直したい機会にしたいと思います。



ブロッコリーおいしいな

「一度、家でも作ってみます」とレシピを持って帰られた保護者がいました。食べられる食材が増えた子どももいます。



食べさせてあげようか

「これ嫌いやねん」と言う子どもにも、「お母さんが食べてみたらおいしかったぞ」となどと母親が声をかけながら一緒に食べ、食べられる食材が増えた子どももいます。

給食つておいしいね
給食試食参観
府中保育園

食育の一環として、保育園給食に関心を持ってもらうために、給食試食参観を行なっています。今回の献立は、卵の花煮、ブロッコリーのごまだれかけ、すまし汁でした。

高齡視覚障害者へのリハビリ・レク
 研修会で事例発表
 盲養護老人ホーム 梨ノ木園



リハビリが楽しみになりました

伊賀ブロック老人福祉施設協会二十一世紀委員会主催の研修会において、『高齡視覚障害者へのリハビリ・レクリエーションの取り組み』について、事例発表を行ないました。

梨ノ木園を利用の皆さんが、生き生きと楽しみを持って生活が送れるよう、個々のペースに合わせたリハビリを兼ねたレクリエーションを行なっていることなどを発表しました。具体的には、大豆と小豆の仕分けをしたり、小さなビーズの穴に触れて糸を通した



指先に集中して脳を活性化

り、視覚からの情報が無くても、指先で形の違いを感じ取りながら、集中して作業されています。また、視覚障がい者の皆さんが作業し易いように、糸の先にヘアピンを付けたり、物の輪郭や色が判る方には、容器の淵に色付きのテープを貼るなど、職員が道具に工夫を加えています。

作業を終えると「上手く出来てとても嬉しい」「もっとしたいな」といった意欲的な声がたくさん聞かれるようになってきていることなどを発表しました。

身体障害者支援施設 梨丘園 **年忘れ会** 特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園

「笑って1年を締めくくりました」

梨丘園の年忘れ会は、利用者の皆さんがかくし芸を披露することになりました。普段とは違った仮装姿での登場に、会場は笑いに包まれました。

作詞・作曲をし、自分で歌ってくれる方や、クイズを職員と一緒に考え出題してくれる方など、みんなが楽しめるように工夫を凝らしてくれました。

職員はAKB48のダンスを披露し、利用者の皆さんと共に楽しい時間を過ごすことができました。



美しいメロディにうっとり

「1年を振り返り、新たな年へ」

12月25日に年忘れ会を開催しました。紙で作ったケーキにデコレーションをするゲームでは、利用者の皆さんは、苺やチョコレートなどを手に持ち、どこに飾ろうかと試行錯誤を重ね、とてもかわいく美味しそうなケーキができました。

また、1年間の写真をスライドショーで上映しながら、その年の出来事や園での行事を振り返りました。外出や往古梨まつり、食事等の写真が映し出されると利用者からは「良い顔してるなあ」「あの時は楽しかったなあ」と声があがりました。



楽しい思い出がいっぱい

お正月に獅子が舞う

老人デイサービスセンター なしのき

「お正月の楽しみは何ですか？」という問い掛けに「なしのき獅子舞」と、利用者の皆さんが口々に答えてくれました。

「高齢やし、足腰が痛いけど、お正月は神社にお参りしたい」という声を大切にして、初詣が無理なら獅子舞はどうかと、職員が手作りしたものです。



獅子舞と扮装した職員が登場

今年のお正月も当センターのフロアでは、獅子舞の登場に大きな拍手と歓声が湧きました。

「持病の腰痛が和らぐように」「三年前の



良い1年になりますように

ように歩けたらええなあ」など、利用者の皆さんの思いを受け、獅子は今年も所狭しと大いに舞いました。

いただきますーす

『春の皿には苦味を盛れ』

旬の食材には、その季節に私たちの体が必要としている栄養が多く含まれています。

春は新陳代謝が活発になり、冬に蓄積した不要な物を排出し、体が生まれ変わる時期になります。春野菜には、強い香りや独特の苦味を持つものが多いですが、この香りや苦みの成分が、私たちの体の不要な物を解毒・浄化する働きがあります。

～代表的な春野菜の効能を紹介します～

「春キャベツ」…胃腸に優しいビタミンUが豊富で、免疫力を高め、風邪の予防にもなる。ただし、加熱すると壊れ易いので、生で食べたり、加熱する場合にはスープなどにして汁ごと食べると良い。

「菜の花」……カロチン、ビタミンC、カリウム、鉄などとても栄養価が高い野菜で、高血圧予防、貧血予防になる。

「筍」……食物繊維が豊富で、便秘解消やダイエットに効果的である。

みずみずしい春の恵みをいただき、新年度に向けてしっかり身体づくりをしましょう。

ご寄付をいただきました

特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園

「伊賀上野ライオンズクラブ」様よりご寄付を頂戴し、車椅子用体重計を購入させていただきました。高齢の方にとって車いすのままで体重が測れることは、身体への負担が少なく大変喜ばれております。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



車いすのプレゼント

身体障害者支援施設 梨丘園



「三重県社会福祉協議会」様を通じ、「トヨタL&F中部株式会社」様より車椅子を寄贈していただきました。ご利用者の外出等に活用させていただきます。温かいお心遣いありがとうございました。

祝 成人

かしの木ひろば

1月13日成人の日に、濱邊統喜雄さんの二十歳のお祝いをしました。黒のスーツとネクタイ姿に「統喜雄さん、素敵」「背が高くて格好いい」「とっても似合っているよ」と皆が声をかけると、照れながらもピンと背筋を伸ばしてお辞儀をし、挨拶されました。

他の仲間から、写真いっぱいの色紙をプレゼントされると、「ウンウン」と首を上下に振り、

はち切れんばかりの笑顔があふれていました。ケーキとコー



みんな二十歳の晴れの日を

ヒーで祝ったティーパーティーでは、お好みのケーキを食べて盛り上がりました。

統喜雄さん、おめでとうございます。

い、点訳、音訳ボランティアの皆様が、意見交換や歓談の意欲が、有意義な時間となりました。



聖ヨハネ教会堂で記念撮影

普段、顔を合わせる機会の少ない、点訳、音訳ボランティアの皆様が、意見交換や歓談の意欲が、有意義な時間となりました。

点訳・音訳ボランティア 合同研修会 上野点字図書館

点訳並びに音訳にご協力いただいているボランティアの皆様、研修と親睦を兼ねて「ボランティア合同研修会」を毎年実施しています。今回は、松本義肢製作所（愛知県小牧市）と博物館明治村（同県犬山市）へ行きました。午前中は、松本義肢製作所において、一人ひとりのニーズに合わせて作られていく義肢や装具の製作工程を見せていただきました。午後からは博物館明治村において、三重県尋常師範学校・蔵持小学校や森陽外・夏目漱石住宅、聖ヨハネ教会堂などの貴重な建築物を、ボランティアガイドのお話を聞きながら見学しました。

大きなさつまいも

かしの木ひろば



顔より大きいね

地場産市場に出品された大きなさつまいもを、地域の方からいただきました。利用者の皆さんは「大きいね」「重いね」と触ったり、抱えたりしているうちに、どれくらいの重さなのかと疑問が湧いてきたようです。そこで重さ当てをすることにしました。利用者同士で「10キロはあるかな」「そんなにないよ」と話し合ったり、車椅子の方は、膝に乗せて確かめてみたりして、重さを書いた紙を投票箱に入れていきました。

一週間後、皆で重さを量ると、4,600グラムありました。残念ながら、ピッタリ当てた方はいませんでしたが、楽しいひとときを提供してくれたさつまいもは、大量のふかしいもになり、おなかにおいしく収まりました。

地域の皆さん、ありがとうございました。

点字図書館の仕事について

上野点字図書館

上野西小学校の4年生に「点字図書館の仕事と役割」について話をする機会がありました。

はじめに、点字図書館を利用される視覚障がい者について説明しました。視覚障がいといっても、全盲や弱視など見え方の程度は様々で、点字を読める人・読めない人がいます。それをお伝えするために当館で貸し出しをしている点字図書と録音図書を見ていただきました。児童からは「ボランティアは何人ですか」「どんな人が点字を作ったのですか」など、たくさんの質問をいただき、丁寧に答えするとともに、誰もが住みやすい街づくりのために一人ひとりができることを一緒に考えました。

これからも、視覚障がいについて関心を持っていただけるよう、啓発の機会を大切にしていきたいと思っております。



熱心にメモをとる4年生

◆ご支援ご協力いただいている方々◆

(平成25年10月～平成26年1月)

《個人》

—敬称略・五十音順—

井岡 昭、井岡 千草、石山 淑子、伊藤 利史、稲垣紀代子、稲森きぬ子、
 稲森千鶴子、稲森 律子、今矢 義文、上嶋伊佐雄、上谷 隆昭、上野 庸
 岡森 明彦、岡森 金一、岡森 泰造、岡森眞理子、奥田 英夫、奥田やえ子、
 貝増 恒子、門田 進、上村 倫子、川合 弘美、北泉 優子、木村都美子、
 葛岡正三子、葛原 義一、後藤 のぶ、佐々木聖子、清水 栄子、清水みどり、
 庄山 愛子、城本 隆子、杉本 将、角田 宗成、角田 充代、田中 美紀
 田中美代子、谷口 哲男、田山紗知子、塚本 初子、戸上 宗賢、豊岡 潔子
 豊田 真、豊田 礼子、中岡 紘一、中川 定子、中川 甫、中出 潔子
 中村 昌子、中森美年子、中森 洋子、中矢 英夫、中山 洋美、服部 康祐
 比澤 茂、福田 定子、藤井 充子、藤井 洋子、藤島 千代、藤永 清信、
 藤林 政代、藤森 直美、古川 節郎、古川美智代、堀池 克昌、堀池 良一、
 前川 悟、前川 宏之、松岡 秀行、松田 玉江、松田 雅子、松本 学
 南 つじ江、南出 寛三、宮田 琴代、宮本 清子、百北 幸雄、森 喜良
 森 令子、森井久美子、森岡 佑子、森下 弘子、森田 満枝、森中 一美
 矢口キヌ代、矢倉 昌、山口 義美、山本 君子、米田美紀子、米村 元一

《団体》

—敬称略・順不同—

上野点訳奉仕グループあい、上野音訳グループしのみ、
 名張点訳グループあかり、名張音訳グループこだま、
 アートハウスホームニカクラブ、伊賀FCくノ一、絵手紙いろは、
 絵本ボランティア「もこもこ」、大野木ゆうゆうクラブ、
 おはなしクラブいがぐり、蕉門ホール「語り部塾」、にんじんクラブ、
 ひよっこ育成クラブ、ボランティアグループあゆみ、
 ボランティアグループミックスジュース、三田コース、
 伊賀上野ライオンズクラブ、伊賀市上野視覚障害者福祉会、
 伊賀市更生保護女性の会、伊賀市シルバー人材センター、
 伊賀市上野老人クラブ連合会、伊賀市権利擁護委員協議会、
 上野東ロータリークラブ、三重県社会福祉協議会、三重県私立保育連盟、
 長田小学校、府中小学校、伊賀白鳳高等学校、岡波看護専門学校、印代地区、
 上野徳居町老人クラブ、上野福居町老人クラブ、小田町公民館、
 小田町住民自治協議会、神戸老人クラブ、下友生児童組合、白樺地区、朝屋地区、
 朝屋老人クラブ、寺町自治会、寺町老人会、友生老人クラブ、中瀬区長会、
 中瀬地区老人クラブ、長田地区市民センター、長田地区住民自治協議会、
 花之木社会福祉協議会、花之木不地区委員会、府中公民館、
 古山区住民自治協議会、三田地区社会福祉協議会、三田地区住民自治協議会、
 ゆめが丘地区民生委員児童委員、ひかり保育園保護者会、古山保育園保護者会、
 射手神社、常住寺、日蓮宗法音寺上野支院安立寺、平井神社、
 グリーンセンター福祉会、恒風寮、森の里、伊賀上野ケーブルテレビ、
 今岡米穀店、上野ガス、小川整備、奥田理容店、金谷、欣栄堂、甲野屋、寿被服
 志摩すし店、親和工務店、トヨタT&F中部、ナック、名張屋製麺所、鍋本商店
 西尾石油店、西尾デンキ、白鳳電工、ひらい小児科クリニック、福田豊工務店
 マルノウ、村協電気、名阪設備工業、MORII建築設計室、米岡家具センター

法人内研修

—福祉に携わる者として—

当法人では、福祉の本質を理解するには、それを取り巻く環境や歴史、社会を構成する様々な要素から学ばなければならぬという考えのもと、幅広い分野から講師をお迎えして、研修会を開催しています。

福祉に関する専門的な研修に加え、郷土の歴史や文化、気象、古生物との関わり、貴重な戦争体験談など講演内容は多岐にわたります。

本年度8回目の研修として、三重県防災対策部防災技術指導員の加藤清様から、過去に発生した地震災害の状況や防災対策などを学び、災害発生時に施設が担う役割と使命を改めて認識することができました。

今後も各種外部研修に参加するとともに、民間福祉施設職員としての意識向上、広い視野と主体性をもった職員の育成に努めることを目的に、研修体制の充実を図りたいと考えています。



法人内研修の様子
(曙保育園 ひまわりホール)

放課後児童クラブ開所時間延長について

次の児童クラブについて、時間を延長して利用できるようになります。

平成26年4月1日より

○上野西小学校区

児童クラブ「キッズうえの」

夏休みなど長期休暇利用時

8:00～18:00 → 7:30～18:00

平成26年4月7日より

○友生小学校区

児童クラブ「風の丘」・「第2風の丘」

通常利用時

下校時～18:00 → 下校時～19:00

特定相談支援事業所の開設について

特定相談支援事業は、障がいがある利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、適切な保健・福祉・就労支援・教育等の障害福祉サービスを総合的かつ効率的に利用し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、適切かつ円滑な計画相談支援を提供する事業です。

当法人では、同事業所を平成26年4月より開設する予定です。

お知らせ

施設案内 中瀬城東保育園

平成25年11月22日、中瀬城東保育園こすもすホールにおいて、伊賀市長様、三重県健康福祉部子育て支援課保育サービス班長様はじめ、関係機関の皆様のご臨席を賜わり、改築竣工式を挙行いたしました。ご来賓の方々からは、温かいご祝辞をいただき、5歳児の歌やくす玉が竣工式に華を添えました。

当園は、昭和29年に中瀬地区福祉会が、中瀬小学校の校舎の一部を借用して立ち上げた保育事業が始まりました。昭和40年に社会福祉法人上野市社会事業協会（現伊賀市社会事業協会）に運営が移管され今日に至っています。その後、昭和51年に改築しましたが、園舎の老朽化や入所希望児童数の増加などにより、今年度全面改築して、定員を140名にしました。



くす玉で竣工を祝う

改築した園舎は、明るいクリーム色の外観です。近々を流れる服部川の清流と歴史に残る南宮山などをイメージした



広い園庭うれしいなあ

すこい虹がある、魚も泳いでる」お陽さま当たたら床にも映つてきれいやなあ「2階の窓にどうやって絵の具塗ったんやろう」とステンドグラスを見てとても喜んでいました。

近年、周辺地域に住宅が増え、保育ニーズが高まっています。子育てと就労の両立支援を図るため、延長保育事業を開始しました。また、在宅の子育て家庭支援のために「にこにこひろば」を充実し、あそびの広場や育児相談などを推進していきま

す。従来から取り組んできた子どもの自己肯定感を育て「人権を大切にす

輝いて見守る温かく子どもたちをスは、ドグラ

梨ノ木診療所では、内科診療をはじめ、健康診断・各種予防接種など健康のお手伝いをしています。また、通院手段等ご相談に応じますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】 ☎0595-26-5533

Table with columns for 診療時間, 月, 火, 水, 木, 金 and rows for 午後1:30~5:00.

※水曜日は午後1:30~3:00になります。

いま、私たちは あなたの力、を求めています

保育士 介護職員 看護師

平成26・27年4月採用の学卒者、中途採用者の応募も随時受け付けています。

法人本部事務局 ☎0595-21-5545

当法人の施設

- List of facilities including 盲養護老人ホーム, 特別養護老人ホーム, 梨ノ木診療所, 中瀬城東保育園, etc.

編集後記

昨年未、地域の環境美化活動に参加しました。枯草の土手には、桃色の小花をつけたホトケノザ、地表に口ゼツト葉を広げたセイヨウタンポポがけなげに咲いていました。思わず「この寒さの中大変だね」と声をかけてしまいました。

この時、一年間の様々な出来事が蘇ってきました。竜巻・台風等の自然災害、原発問題等が先が見えない苦悩が楽な優勝で少し癒され、東京オリンピック・パラリンピック開催決定に歓喜し、そして乳幼児の虐待増加等々：今年は何んだろ。本になつて行くのだから。この一年は、できるだけ穏やかな年でありたいと祈らずにはいられません。

私たちは被災地のより一層の復興を願いつながら福祉職員として世の中の動向を注視し、利用者の命と最善の利益を守るため、危機管理に配慮し、地表に根を張るあのタンポポのように地道な努力を続けていきたいと思います。

本年度は、本紙を3回発行させて頂いたことになりました。各施設の情報や行事などを掲載し、詳しくお届けできるように、職員一同努めてまいります。(編集子F)